

平成28年

第9回彦根市子ども議会会議録

11月  
(11月12日)

彦 根 市 議 会



平成 28 年 1 1 月

## 彦根市子ども議会会議録総目次

11月12日(土)

議事日程	1
本日の会議に付した事件	1
会議に出席した議員	1
会議に欠席した議員	1
議場に出席した事務局職員	1
会議に出席した説明員	2
開会	3
開議	3
会議録署名議員の指名(1番 上野波留さん(旭森小学校)、2番 坂田あすかさん(平田小学校)、3番 吉原ほのかさん(金城小学校)、4番 古川和愛さん(城西小学校))	3
会期の決定	3
彦根市政について(一般質問)	3
<b>1番 上野波留さん(旭森小学校) 質問</b>	4
国体で、彦根の市民が活躍するには	4
山口教育部長 答弁	4
<b>1番 上野波留さん(旭森小学校) 再質問</b>	5
山口教育部長 答弁	5
<b>2番 坂田あすかさん(平田小学校) 質問</b>	5
一人一人が自分に自信をもつために	5
善住教育長 答弁	6
<b>2番 坂田あすかさん(平田小学校) 再質問</b>	7
善住教育長 答弁	7
<b>3番 吉原ほのかさん(金城小学校) 質問</b>	7
小学校における動物飼育	7
善住教育長 答弁	8
<b>4番 古川和愛さん(城西小学校) 質問</b>	9
彦根市の人の心に残るイベント作り	9
黒澤産業部長 答弁	9
<b>5番 井入聖奈さん(城東小学校) 質問</b>	10
私たちの学区に、子どもたちが体を動かせる公園を	10
下山都市建設部長 答弁	10

6番	西村萌実さん（鳥居本小学校）	質問	11
	遊具を増やして楽しく運動を		11
	山口教育部長	答弁	11
7番	辰巳咲寿音さん（稲枝北小学校）	質問	12
	曾根沼干拓地を「道の駅」に		12
	下山都市建設部長	答弁	13
8番	磯貝侑采さん（亀山小学校）	質問	13
	障害のある人が意欲をもって働ける場所を増やしては		13
	川寄福祉保健部長	答弁	14
9番	川島伝華さん（若葉小学校）	質問	15
	自転車専用レーンの設置を		15
	下山都市建設部長	答弁	15
10番	森岡瑞稀さん（高宮小学校）	質問	16
	琵琶湖岸に子どもから大人まで楽しめる公園を		16
	下山都市建設部長	答弁	16
11番	大森陽貴さん（城北小学校）	質問	17
	防犯カメラを増やして安全な町に		17
	萩野企画振興部長	答弁	18
12番	堀居美里さん（城陽小学校）	質問	18
	彦根市民が自分で命を守るために		18
	川嶋副市長	答弁	19
13番	大西桜愛さん（稲枝北小学校）	質問	20
	荒神山古墳を広めるために		20
	馬場文化財部長	答弁	20
14番	西島良哉さん（河瀬小学校）	質問	21
	琵琶湖の固有種の魚を守ることに		21
	小林市民環境部長	答弁	22
15番	堀部千穂さん（稲枝西小学校）	質問	22
	市立図書館の建設と彦根市近隣の図書館利用を		22
	大久保市長	答弁	23
16番	大林莉緒さん（河瀬小学校）	質問	24
	たちばな号の巡回時間、巡回日について		24
	山口教育部長	答弁	24
17番	松山時央さん（稲枝東小学校）	質問	25
	稲枝に学生が利用しやすい図書館を		25
	山口教育部長	答弁	25

18 番 江畑有希菜さん（城南小学校）	質問	26
キッズ広報をつくってみては		26
善住教育長	答弁	26
19 番 磯谷莉子さん（城北小学校）	質問	27
たくさんの外国人観光客が楽しめる彦根市に		27
山根副市長	答弁	27
19 番 磯谷莉子さん（城北小学校）	再質問	28
山根副市長	答弁	28
20 番 近藤颯太さん（佐和山小学校）	質問	29
彦根城を気持ちよく見学するには		29
下山都市建設部長	答弁	29
21 番 馬場優月さん（高宮小学校）	質問	30
朝市をもっとたくさん		30
黒澤産業部長	答弁	30
22 番 坂井花乃さん（金城小学校）	質問	31
増えすぎた水草から琵琶湖を守ろう		31
小林市民環境部長	答弁	31
閉会		32



平成28年11月12日

第9回彦根市子ども議会会議録

【第1日】

# 第9回彦根市子ども議会会議録

平成28年11月12日（土曜日）

---

## 議事日程

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 彦根市政について

---

## 本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 彦根市政について

---

## 会議に出席した議員（22名）

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1番 上野波留さん（旭森小学校）   | 12番 堀居美里さん（城陽小学校）  |
| 2番 坂田あすかさん（平田小学校）  | 13番 大西桜愛さん（稲枝北小学校） |
| 3番 吉原ほのかさん（金城小学校）  | 14番 西島良哉さん（河瀬小学校）  |
| 4番 古川和愛さん（城西小学校）   | 15番 堀部千穂さん（稲枝西小学校） |
| 5番 井入聖奈さん（城東小学校）   | 16番 大林莉緒さん（河瀬小学校）  |
| 6番 西村萌実さん（鳥居本小学校）  | 17番 松山時央さん（稲枝東小学校） |
| 7番 辰巳咲寿音さん（稲枝北小学校） | 18番 江畑有希菜さん（城南小学校） |
| 8番 礮貝侑采さん（亀山小学校）   | 19番 礮谷莉子さん（城北小学校）  |
| 9番 川島伝華さん（若葉小学校）   | 20番 近藤颯太さん（佐和山小学校） |
| 10番 森岡瑞稀さん（高宮小学校）  | 21番 馬場優月さん（高宮小学校）  |
| 11番 大森陽貴さん（城北小学校）  | 22番 坂井花乃さん（金城小学校）  |

---

## 会議に欠席した議員（なし）

---

## 議場に出席した事務局職員

- 事務局長 馬場完之
- 事務局次長 山口和子
- 庶務係長 大城智昭
- 書記 高山喜市

## 会議に出席した説明員

市 長	大久保 貴 さん	上下水道部長	疋 田 武 美 さん
副 市 長	山 根 裕 子 さん	会 計 管 理 者	西 田 哲 雄 さん
副 市 長	川 嶋 恒 紹 さん	病 院 事 務 局 長	山 口 昌 宏 さん
企 画 振 興 部 長	萩 野 昇 さん	消 防 長	河 池 博 さん
企 画 振 興 部 参 事	辰 巳 清 さん	教 育 長	善 住 喜 太 郎 さん
総 務 部 長	和 気 豊 文 さん	教 育 部 長	山 口 義 信 さん
総 務 部 危 機 管 理 監	高 田 秀 樹 さん	文 化 財 部 長	馬 場 孝 雄 さん
市 民 環 境 部 長	小 林 重 秀 さん	企 画 振 興 部 次 長	野 崎 孝 志 さん
福 祉 保 健 部 長	川 寄 孝 さん	財 政 課 長	西 田 康 浩 さん
産 業 部 長	黒 澤 茂 樹 さん	秘 書 政 策 課 長	高 橋 嘉 子 さん
都 市 建 設 部 長	下 山 隆 彦 さん		

○議会事務局長（馬場完之さん） 皆さん、おはようございます。

本日は、第9回子ども議会にお越しいただきまして、まことにありがとうございます。

ご来場の皆様方をお願いいたします。本日は、子ども議会の取材のため、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承くださいますようお願いいたします。また、保護者の皆様、傍聴者の皆様方には、本会議中の撮影は傍聴席からのみとさせていただきますが、本会議終了後に撮影時間を設けておりますので、議場内での撮影は本会議終了後をお願いいたします。なお、議場内では飲食は禁止とさせていただきます。また、携帯電話をお持ちの方は、電源を切っていただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

それでは、第1グループ議長、坂井花乃さん、議長席へお願いいたします。

---

午前9時17分開会

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 最初に議長をします金城小学校、坂井花乃です。

よろしく申し上げます。

ただいまから第9回彦根市子ども議会を開会します。

ただちに会議を始めます。

---

#### 日程第1 会議録署名議員の指名

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 日程第1、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員に1番上野波留さん、2番坂田あすかさん、3番吉原ほのかさん、4番古川和愛さんを指名します。

---

#### 日程第2 会期の決定

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お聞きします。今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日としたいと思います。これに異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 異議なしと判断します。

今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日と決定しました。

---

#### 日程第3 彦根市政について（一般質問）

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 日程第3、彦根市政についてを議題とし、質問を行います。

22名の皆さんから質問が提出されていますので、三つのグループに分けて行います。

まず、第1グループの順番は、1番上野波留さん、2番坂田あすかさん、3番吉原ほのかさん、4番古川和愛さん、5番井入聖奈さん、6番西村萌実さん、7番辰巳咲寿音さん、

8 番議員佐采さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

1 番上野波留さん。上野さん。

〔1 番（上野波留さん）登壇〕

○1 番（上野波留さん） 「国体で、彦根の市民が活躍するには」

僕は、国体に向けて、体育館や武道場、弓道場を増やすこと、そして、種目ごとの教室を開くことを提案します。

国体の選手は、滋賀全体で選考されます。その中で、一人でも多くの彦根市民が出場してくれたらうれしいと思います。

オリンピックでは、日本代表選手の中に彦根出身の選手がいることで、応援に力が入りました。

僕は、市民体育センターが新しくなると聞いたのですが、中学校の学区ごとにでも小さな体育館があると、すぐに行けて、体を動かしたり練習をしたりできるので、もっと身近なところに小さな体育館があるといいなと思います。それから、弓道場、武道場を市内に何か所かつくって、体育館種目以外の競技も国体に向けてしっかり練習していかなければいけないと思います。

そして、もう一つの教室を開くという提案は、国体に向けて、ある種目を始めるきっかけになったり、上達したりするための教室を開いたら、今の子どもが大人になったときに、彦根の人が活躍できるのではないかということです。どの競技でも今からなら間に合うと思います。それはなぜかというと、今は指導者の方が多くいて、マシンもあるので、すぐに上達できると思うからです。いかがでしょうか。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 教育部長。

○教育部長（山口義信さん） 今年の夏、リオデジャネイロでオリンピックとパラリンピックが開催され、彦根市出身の桐生選手の活躍に、上野さんと同じように応援に力が入った人や感動した人がたくさんいたと思っています。日本中でスポーツに対する関心が一段と高まった感じがしています。また、岩手県で行われていた国民体育大会には、彦根市出身、あるいはゆかりのある約20名の選手が出場し、水泳やホッケー競技で優秀な成績をおさめられました。上野さんのご意見のとおり、私たちも、4年後の東京オリンピック、8年後の滋賀県で開催される国民体育大会では、一人でも多く彦根市出身の選手に活躍してもらいたいと願っています。そして、そのためにも選手が育つよう支援していきたいと考えています。

上野さんのご意見のように、身近にたくさん体育館や弓道場、武道場等の運動施設があるとよいのですが、それらの施設を建てるためには用地や建設費が必要なほか、施設ができたとしても維持管理に多額の費用をかけなければならず、建設は難しいのが実情です。そのため、本市では、各小・中学校の体育館や武道場を平日の夜間や土日など学校の授業や行事で使用されない時間帯に市民の皆様に使っていただけるようにしております。より多くの方にスポーツを楽しんでもらい、その中から県代表の選手が生まれてほしいと考え

ています。

もう一つの提案である種目ごとの教室を開くことについてお答えいたします。

彦根市では、平成36年に2巡目滋賀国体が開催されるため、今年度からジュニア期におけるスポーツ教室育成支援事業を始めました。この事業は、国体開催種目の中から8種目程度を選び、市内小学3年生から6年生を対象に各競技種目のスポーツ教室を年間10回程度実施するものです。今年度は、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、ホッケー、剣道、柔道、弓道、なぎなたの八つの教室を開催しています。上野さんのご意見のとおり、この事業が新しい種目を始めるきっかけになったり、上達するきっかけになったりするように、充実した内容にしていきたいと考えています。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 上野さん。

〔1番（上野波留さん）登壇〕

○1番（上野波留さん） 再質問します。

維持費などでお金がかかると言われておりました。今の武道場が城東小学校の近くにありますが、あそこの武道場ですと試合などができません。もう少しでも大きな武道場があるとすごくうれしいと思います。あと、維持費などですごく大変ですが、小・中学校の体育館だけだと小学校などから遠い人がいます。なので、遠い人を対象に体育館などがあるとすごく便利だと思います。それから、お金の問題などがありますが、これからは国体に向けてしっかりとしていけないといけないと思うので、よろしくをお願いします。

これで質問を終わります。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 教育部長。

○教育部長（山口義信さん） 再質問にお答えします。

今の武道場が非常に狭くて使いにくいというご意見なんですが、今、彦根市では、まず新市民体育センターについて議論しながら整備を進めたいと考えています。それがまず優先課題と考えています。また、施設総合管理計画の中で個別計画を今後作成する予定にしておきまして、武道場につきましても、今後のあり方についていろいろ議論してまいりたいと考えています。それから、また維持管理につきましても、今後、いわゆる定期的な長寿命化を図りながら長く使っていける、そして、効率的に活用し、維持管理に努めながら、その分をできるだけそういうスポーツ関連のものに活用してまいりたいと考えています。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 上野さん。

〔1番（上野波留さん）登壇〕

○1番（上野波留さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 2番坂田あすかさん。坂田さん。

〔2番（坂田あすかさん）登壇〕

○2番（坂田あすかさん） 「一人一人が自分に自信をもつために」

私は、一人ひとりが自分らしく生活して、自分のやりたいことに挑戦できる彦根市にな

ってほしいと考えます。今、テレビや新聞や本を読んだりすると気づくことがあります。それは、人任せにしてしまう、話すことが苦手で人と余り話すことができない人がいるということです。私もそうでした。そういう人が苦手なことなどを克服するために、私は四つのことを提案します。

一つ目は、子どもが中心となる活動をすることです。例えば、子どもが計画から自分たちで決め、大人がサポートに回るといった形のもので、自主的にやらなければならないこと、話し合わなければならないという場が生まれ、自分を表現したり、自分から人と話すことにつながります。

二つ目は、やってみたいことを何でもできる施設を建てることです。例えば、修学旅行で行った職場体験のできるキッズニアのように、いろいろな体験ブースをつくり、気軽にやってみようと思ったことに参加できる場を設置してほしいです。その場で受け付けができるので、簡単に参加でき、その種目によっていろんなことで協力できたり話したりできるので、自分からやろうとする力や、仲間と協力して何かをなし遂げることができる力がつくと思います。

三つ目は、いろんな年代の人が参加できるイベントを開催することです。例えば、昔の遊びを教えてもらったり、昔話を聞いたり、反対に私たちが知っていることを話したりすれば、幅広い年代の人と交流することができるので、とてもいい機会になると考えています。

四つ目は、子育て体験です。子育てを体験することで、子育てのお手伝いもできますし、いろいろなことがわかると思います。

私は、これらの四つの提案します。

彦根市の一人ひとりが心も体も健康で、生き生きと生活して輝く彦根市になってほしいと思います。こういった取り組みを考えてみてはいかがでしょうか。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 教育長。

○教育長（善住喜太郎さん） 市民一人ひとりが生き生きと生活できる彦根市になってほしいと願い、四つの提案をいただきました。

まず、一つ目の子どもが中心となる活動をすることについてですが、例えば、彦根市で実施している子どもフェスティバルでは、市内の小学4年生から中学3年生までの子どもたちがジュニアボランティアとして計画や準備、運営を行っており、大人の委員が手伝ってくれています。今年のフェスティバルでも、幽霊のお城や、自分たちでアクセサリーをつくるアクセサリーカンパニーなど、誰もが楽しく参加できる体験コーナーを考えてくれました。これからも多くの人に参加いただき、より多くの体験コーナーが設置できればと思っています。

二つ目の体験施設を建てるという提案ですが、彦根市では、子どもたちが活発に遊べ、学べるための施設として、子どもセンターや二つの児童館を設置しています。今、子どもセンターでは、豊かな自然の中での星の観察や、自然科学教室、工作教室などを開催し、

こうした取り組みの中で年齢の違った子どもたちの交流を促し、子どもたちの社会性や創造性を育てています。こうした今ある施設の中で実施している催しを見直し、よりよい体験内容を考え、たくさんの方が参加できるように呼びかけていきたいと考えます。

三つ目のいろいろな年代の方が参加できるイベントを開催することについてですが、例えば各学区には青少年育成協議会というものがあまして、幅広い年代の方が、挨拶運動や子ども見守り活動の推進のほか、たこ揚げやお餅つきなど、地域の特色を生かした活動を行う中で、皆さんの健やかな成長を応援しています。

昔の遊びや昔話を聞く活動は、地域や学校によっては既に行っているところもたくさんあります。学校の先生やおうちの人に聞いてみてはどうかと思います。

最後に、四つ目の子育て体験についてですが、彦根市では、子どもセンターや児童館で親子が気軽に参加できるひろば事業を実施しており、遊びながら子育てを楽しく学び、交流できる場となっています。

また、市内の中学校では保育実習という学習があります。実際に保育園や幼稚園に行き、園児とかかわる活動があるので、楽しみにしてほしいと思っています。

彦根市ではこのようなさまざまな活動が既に始まっているのですが、皆さんにもっとこれをお知らせしたり、坂田さんの意見も参考に、さらに活発になるようにこれから考えていきたいと思っています。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 坂田さん。

〔2番（坂田あすかさん）登壇〕

○2番（坂田あすかさん） 再質問します。

私の学校には手紙などが来たりするのですが、そういう子育て体験などの紙を余り見たことがありません。そういうところはどうなっているのですか。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 教育長。

○教育長（善住喜太郎さん） いろんなお手紙が学校には来ると思っていますし、それは、学校の先生方がしっかりその中を見て、いろいろご対応されていると思いますので、もしそのようなお手紙の中で皆さんにお知らせをするようなものがあれば、学校の先生がそれを判断されて、皆さんにいろいろな形でお話をされると思います。もしどのようなものがとお考えでしたら、一度学校の先生に聞かれてみてはどうかと思っています。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 坂田さん。

〔2番（坂田あすかさん）登壇〕

○2番（坂田あすかさん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 3番吉原ほのかさん。吉原さん。

〔3番（吉原ほのかさん）登壇〕

○3番（吉原ほのかさん） 「小学校における動物飼育」

私は、彦根市の小学校で動物を飼育することを提案します。

現在、私の学校では動物を飼育していません。兄が通っていたころは烏骨鶏を飼育していたと聞いています。私は犬を飼っていますが、学校から帰ってくると、尻尾を振って出迎えてくれます。だっこをすると、体温の暖かみがあり、癒やされます。

動物を飼うということは、命の大切さ、愛する心、思いやりの心を学ぶことができると思います。また、動物の世話をすることで責任感を持つことができます。

ですが、考えなければいけないこともあります。長期休暇中の世話です。また、動物を飼育するということは、その動物の習性或正しい飼い方、接し方を学ぶことも必要です。さまざまな問題も出てくるかもしれませんが、校内に飼育委員を置き、時には獣医師の助言をもらいながら考えていけばいいと思います。動物を飼育することは、たとえ手間や時間がかかっても、いろいろなことが学べる機会になるのではないのでしょうか。

このことから、校内で児童がつくる環境や管理のもとで、児童の心が癒され、命を大切に育める動物飼育を提案します。これにより、私たち児童が今よりも楽しい学校生活を送れることを望みます。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 教育長。

○教育長（善住喜太郎さん） 吉原さんも述べられたように、小学校で動物を飼育することは、多くの教育的効果があると考えています。命あるものを守るといった強い責任感を育んだり、友達と一緒に世話をすることにより、役割や分担を考えて協力し合うことの大切さを学んだりすることができます。

吉原さんの通っている金城小学校では、鳥インフルエンザなどの病気の問題や飼育小屋が古くなってしまったことにより、数年前から動物の飼育をやめ、現在は、飼育小屋があった場所は、子どもたちの憩いの場所となり、また、災害時に活用できるようにかまどベンチが設置されています。今は、植物の栽培や、自然の樹木や植物に訪れる鳥など野生動物、昆虫とのふれあいを大切にしていくなような取り組みがなされていると聞いています。このように、環境を大切にすることや防災について考えることなど、皆さんに学校で学んでほしいことはほかにもたくさんあるということをまず理解してほしいと思います。

確かに、今、学校で動物を飼育することは意義のあることであるとも考えます。ただ、多くの課題もあります。飼育小屋をつくる場所、動物の病気の問題、夏休みや冬休みも含めた毎日の世話など、解決していかなければならないことがたくさんあり、これらをどうするのか、一つ一つ答えをそれぞれの学校で考えていただく必要があります。吉原さんが提案されたことを学校の友達や先生にももっともっと話をされたらどうかと思います。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 吉原さん。

〔3番（吉原ほのかさん）登壇〕

○3番（吉原ほのかさん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 4番古川和愛さん。古川さん。

〔4番（古川和愛さん）登壇〕

○4番（古川和愛さん） 「彦根市の人の心に残るイベント作り」

私は、彦根城の人とキャッスルロードの人に協力してもらって、たくさんの人に楽しんでもらえるイベントを増やせばいいと思います。今、彦根城とキャッスルロードにあるイベントで私が思いつくのは、夏の「ゆかたまつり」、秋の「ご当地キャラ博」の二つくらいです。だから、私はたくさん人の心に残るようなイベントがあるといいと思っています。

そこで、私は、彦根城の桜の美しさを生かしたイベントを提案します。現在、「桜まつり」というイベントが彦根市にあるのですが、私は、このイベントと合体して、幅広い年代の方に共感を持ってもらえるイベント作りをしてはどうかと思っています。現在の桜まつりは、桜を見たり、夜桜を見たりするだけですが、私は、さらに、外国人の観光客にも喜ばれる着つけ体験やお作法教室などを彦根城博物館で開いてみることを提案します。また、キャッスルロードでは、屋台を出してもらって、彦根城、キャッスルロードの2カ所で楽しんでもらえる「桜フェスティバル」という名前にしてはいかがでしょうか。さらに、「桜フェスティバルでやってほしいイベント」という題名で、来てくれた人たちにアンケートをとってみてはどうでしょうか。このアンケートで多かった意見を加えていくことで、どんどんよりよいイベントになっていくのではないのでしょうか。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 産業部長。

○産業部長（黒澤茂樹さん） 古川さんからご提案いただきました彦根城の桜の季節のイベントについて、まずお答えします。

彦根城には約1,200本の桜があり、全国的にも有名な桜の名所として、桜が咲き誇る4月上旬には、毎年、多くの観光客の方にお越しいただいています。

彦根市では、お越しいただいた方へのおもてなしとして、4月1日から20日までを彦根城桜まつりの期間として夜桜のライトアップを行っています。

また、多くの方がお花見を楽しんでいる金亀児童公園では、お弁当や地元の特産品・お土産を販売するご城下にぎわい市を開設しているほか、お堀めぐりの屋形船の夜間運行なども行われています。さらに、今年からは、市内に桜を植えることで、桜の苗木を寄附する人と植樹する人のつながりをつくる千本桜プロジェクトという取り組みも始めたところ です。

ご提案いただきました着つけ体験やお作法体験についてですが、彦根市では、これまで秋の城まつりの関連イベントとして実施していましたが彦根いい秋散策プランで、着物や、よろいやかぶとの甲冑の着つけ体験を行っておりまして、今年は10月下旬から2カ月間、はかまや甲冑の着つけ体験や、市内のお寺での座禅体験も行っています。

今後、こうした取り組みをさらに拡大して、春の時期での実施や、外国人観光客の方が利用しやすい方法について、彦根観光協会や彦根商工会議所などの関係団体とも相談をしていきます。

次に、夢京橋キャッスルロードでの「桜フェスティバル」の提案についてですが、桜の

季節だけでなく年間を通じて、彦根城を初め、商店街やまちなかが多くの観光客の方でにぎわうことは大変重要なことです。桜の季節を含め、混雑が予想される時期において、道路や歩道で屋台を出すということは、交通渋滞や安全面から難しいですが、例えば地元の自主的な取り組みとして、お店の駐車場を利用した出店や夢京橋キャッスルロードにある多くの飲食店を利用してもらい、彦根城と夢京橋キャッスルロードを一体的に楽しんでもらえる取り組みなどを考えていきたいと思えます。

最後に、「桜フェスティバルでのやってほしいイベント」のアンケートにつきましては、観光客が多い中、不特定多数の方にアンケートをとることは難しいことから、観光客の方に直接接していただいている地元商店街の方などの意見を参考にして、よりよいイベントとなるよう工夫していきたいと考えております。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 古川さん。

〔4番（古川和愛さん）登壇〕

○4番（古川和愛さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 5番井入聖奈さん。井入さん。

〔5番（井入聖奈さん）登壇〕

○5番（井入聖奈さん） 「私たちの学区に、子どもたちが体を動かせる公園を」

私は、城東学区に子どもたちが体を動かせる公園をつくってほしいということを提案します。なぜなら、今、子どもたちの体力低下が問題になっているからです。

私たちが住む城東小学校の近くには公園が余りありません。だから、子どもたちは、どうしても家の中でテレビを見たりゲームをしたりすることが多くなってしまいます。学校では、子どもたちのために体力アップ活動をしています。例えば、大縄や馬跳び、そしてボール投げなど、一人ひとりが体力をつけられるように休み時間を使って活動しています。

私は、小さいころから水泳を続けています。水泳をすることで体を動かす気持ちよさや大切さを学びました。だから、運動する場や機会があると、たくさんの友達が、より楽しく元気で健康な毎日が過ごせると思えます。遠くまで家の人に連れていってもらわないのではなく、校区内に思い切り体を動かす場があると、友達と誘い合って楽しく元気よく遊べ、健康な体がつくれます。

ゲームやテレビより魅力のある遊具があって、たくさんの友達とボール運動を自由に楽しめる安全な体育施設や公園をぜひ城東学区につくってほしいと思えます。そして、遊びながら自然に体力をつけ、城東学区から将来のオリンピック選手が出るといいなと思えます。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（下山隆彦さん） 彦根市には、金亀公園や荒神山公園のように、大型遊具が設置され、さらに、野球やサッカーなどいろいろなスポーツができる広場が整備された大きな公園から、ブランコや滑り台のみが設置されている団地の中の小さな公園まで、

目的や広さによってさまざまな種類の公園があります。井入さんがお住まいの城東学区にある比較的大きな公園としては、外馬場公園と大東公園があり、複数の遊具や広場が整備されていますが、ボール投げなどの球技ができる広場は整備されていません。

井入さんご提案のスポーツによって体を動かすことの気持ちよさや大切さを学ぶことは大変重要であり、スポーツに親しむことは体力低下への対策となると思います。

しかし、たくさんの友達と自由にボール運動ができる公園をつくるには、大きな土地が必要となることから、小学校区ごとにこうした大きな公園をつくることは難しいと考えています。

現在、彦根市では、建物が建ち並んでいる京町二丁目に広場があり、防災機能をあわせ持つ公園の整備を予定しています。この公園ではボール運動はできませんが、広場では大縄跳びや馬跳びをすることは可能ですので、身近な公園で、友達と誘い合って、工夫しながら元気に遊び、健康な体をつくってほしいと思います。

なお、校区外ではありますが、彦根市では、平成36年に開催される国民体育大会に向け、彦根城に隣接する金亀公園の運動施設を含めたリニューアル計画を現在策定中であり、私たちも、将来、オリンピック選手が誕生することを夢見て再整備に取り組みますので、井入さんたちも新しくなる公園を楽しみにしていただきたいと思います。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 井入さん。

〔5番（井入聖奈さん）登壇〕

○5番（井入聖奈さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 6番西村萌実さん。西村さん。

〔6番（西村萌実さん）登壇〕

○6番（西村萌実さん） 「遊具を増やして楽しく運動を」

私は、学校の遊具を増やすことを提案します。

私の学校は、遊具が老朽化のため撤去されました。遊具が一つ撤去されたので、しばらくしたら新しい遊具が増えると思いましたが、増えませんでした。健やかタイムといって、10分間運動をしなければならないのですが、それに使える遊具があっても、小さい子が使えるものは少ないので、長い時間遊べません。ですから、運動が十分でないと思います。

そこで、私は、小さい子が長い時間楽しく遊べて運動にもなるような遊具を増やしてほしいと思います。楽しい遊具が増えると、小さい子が退屈せず、長い時間使えます。また、遊具で長い時間遊ぶことで運動にもなります。ですから、小さい子が長い時間楽しく遊べて運動にもなるような遊具を増やしてほしいと思います。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 教育部長。

○教育部長（山口義信さん） 学校の遊具につきましては、遊びを通じて体を動かすことで児童の皆さんの成長を促すことを目的として各学校に設置しています。

現在、鳥居本小学校には、うんていや滑り台など7種類の遊具があり、皆さんに使って

いただいているところです。遊具は、楽しく遊べる反面、点検が十分なされていないような危険なものを使ったり、また、正しい使い方をしなかったりすると、けがをするなど大きな事故につながる可能性があるため、定期的に点検する必要があります。彦根市の小学校の遊具につきましては、学校の先生方が日常的に点検をしているほか、毎月1回詳しく点検した結果を校長先生から教育委員会に報告いただいています。さらに、専門の業者による点検を1年に1回実施して、皆さんが安全に遊んでいただけるように管理をしているところです。

西村さんがおっしゃった撤去された遊具は滑り台ですが、点検の際に柵がぐらついているなど危険なところがありましたので撤去したものです。

学校に設置されている遊具は、家などではできないような体全体を動かした遊びや、たくさん的人数で遊びを楽しむことができ、心と体の成長に大変効果のあるものだと考えていますので、今年度中に鳥居本小学校に代替りの遊具を設置する予定をしています。現在、どのような遊具にするか検討していきまして、西村さんのご意見も参考にさせていただき、皆さんに楽しく遊んでいただける遊具を設置する予定をしております。もうしばらくお待ちいただきたいと思っています。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 西村さん。

〔6番（西村萌実さん）登壇〕

○6番（西村萌実さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 7番辰巳咲寿音さん。辰巳さん。

〔7番（辰巳咲寿音さん）登壇〕

○7番（辰巳咲寿音さん） 「曾根沼干拓地を『道の駅』に」

4年生の総合的な学習の時間に、曾根沼干拓地について地域学習をしました。苦勞して干拓された広い土地が今でも手つかずで残っていることを知り、クラスみんなでグループに分かれ、この土地の使い方を考えてみました。大型公園、体験ファーム、道の駅、博物館と4種類の考え方が出ました。私のグループが考えた道の駅を中心に、みんなのアイデアを入れると、小さい子どもからお年寄りまで楽しめるのではないかと思います。

滋賀県の近江牛、近江米、近江茶、彦根市の彦根梨など地元でとれた野菜を売ると、たくさんの方が来てくれて、そのお金で市や地域を助けられたらいいです。今、稲枝北学区には、大きなお店やスーパー、コンビニなどが無いので、曾根沼に道の駅ができれば地域の人も助かると思います。

私が曾根沼に道の駅ができて一番うれしいことは、稲枝がにぎやかになることです。ですから、道の駅をつくる時は、彦根市の市長さんを初め、副市長さん、議長さんのお力をおかりしたいです。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（下山隆彦さん） 辰巳さんご質問の曾根沼干拓地は、昔に、内湖と呼

ばれる琵琶湖の一部分の水を抜き、農地にした場所で、荒神山の麓に広がる緑いっぱいのエリアであります。現在、その一部について、稲枝地区のにぎわいのための利活用策を見出すことが求められておりますので、辰巳さんたちが学習の中でいろいろなことを考えていただいていること、および、利活用策として道の駅を中心としたご提案をいただいたことをうれしく思います。

道の駅は、現在、全国に1,107カ所あり、滋賀県内にも20カ所ありますが、残念ながら彦根市には1カ所もないのが現状であります。

道の駅といえば、野菜を初めとして地域の商品が買える場所として有名になっていますが、道の駅の目的は、安全で快適な道路交通環境の提供と地域の振興であり、24時間利用可能な駐車場やトイレなどの休憩機能、道路情報や観光情報を提供する情報発信機能、観光レクリエーション施設などの地域連携機能の三つの機能をあわせ持った施設をいい、個性豊かににぎわいの場、地域と利用者が触れ合う場などを基本コンセプトとしています。

辰巳さんご提案のとおり、この付近に道の駅ができますと、湖岸道路を通行する多くの方の利用、また、彦根梨の産地でもあることから、これらの販売などにより、地域のにぎわいの拠点となることが期待できるため、道の駅をつくることはとてもいい考えであると思います。

しかし、道の駅をつくるには、施設やライフラインの整備だけでなく、コンセプトを明確にして取り組む必要があり、商品を売る場所だけでなく、地域の課題を解決するツールとして道の駅を検討する必要があると考えられることから、市の取り組みだけではなく、地域からの盛り上がりが大変重要でありますので、辰巳さんたちを初め、地域の積極的な取り組みを期待しております。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 辰巳さん。

〔7番（辰巳咲寿音さん）登壇〕

○7番（辰巳咲寿音さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 8番礒貝侑采さん。礒貝さん。

〔8番（礒貝侑采さん）登壇〕

○8番（礒貝侑采さん） 「障害のある人が意欲をもって働ける場所を増やしては」

私は、障害のある人が働ける場所をもっと増やすことを提案します。

私の弟には障害があります。そのため、特別支援学校に通っています。この学校に通っている小学生は全員で70人くらいいます。だから、この人たちは将来どのようなところで働くのだろうと疑問に思いました。

以前、私は、障害のある人が働いている作業所を見学したことがあります。その作業所以外にも働ける場所があるのか調べてみると、彦根市には約20軒の作業所があることがわかりました。そこで働いている人はどれくらいおられるのか、そして、働ける環境は十分なのでしょうか、お尋ねします。

作業所で働いている人は、身の回りのことを自分一人でできる軽い障害の人が多かったのですが、弟の学校には、周りの人に手伝ってもらわないといけない重い障害のある人もたくさんおられます。重い障害のある人たちは、将来どこで働けばよいのかと、とても不安だと思います。そこで、軽い障害の人も重い障害の人も意欲を持って働ける場所をもっと増やしてはいかがでしょうか。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（川寄 孝さん） 障害のある人が意欲を持って働ける場所としては、まず、一般の事業所においては、一定の割合以上に障害のある人を雇用しなければならない制度があるほか、仕事に必要な知識や能力を身につける訓練をしながら働いたり、日常生活上の支援を受けて、絵を描いたり、貼り絵をするなど、その人に合った活動をしている作業所などがあります。これらは、現在、市内に20カ所あり、延べ526人の障害のある人が利用をしておられます。

これらの事業所では、クッキー、ワッフルなどのお菓子やお茶、陶芸品、布の袋などの縫製品をつくったり、また、でき上がったものを販売したり、シートベルトの部品を袋に詰めたり、パソコンで作業をしたりするほか、音楽活動や体力づくりなど、利用される一人ひとりに合った活動を工夫しておられます。また、これらの事業所では、配置される職員の数が法律により定められておりまして、その職員さんが作業場所の環境を整えたり、作業や活動の支援をしておられます。利用されている障害のある人は、皆それぞれに自分の力を発揮できるように働いたり、活動をしておられます。

また、彦根市では、障害のある人が働いたり活動したりすることを生きがいにし、意欲を持って生活ができるよう、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町と一緒に地域の自立支援協議会という組織をつくり、各事業所や特別支援学校などの関係者と相談をしながら、学校卒業後の進路先を確保するようにしています。

あわせて、全体の事業を進めていくため、ひこね障害者まちづくりプランや彦根市障害福祉計画を策定し、現状や進みぐあいを把握し、今後の方向を決めて取り組んでいます。これからも引き続き障害のある人が利用できる事業所が適切に確保され、魅力あるものとなるよう努力をしていきたいと考えております。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） 礒貝さん。

〔8番（礒貝侑采さん）登壇〕

○8番（礒貝侑采さん） ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。

○第1グループ議長（坂井花乃さん） しばらくの間、休憩します。

午前10時01分休憩

午前10時11分再開

○第2グループ議長（礒貝侑采さん） 議長を交代しました。亀山小学校、礒貝侑采で

す。よろしくお願いいたします。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第2グループの順番は、9番川島伝華さん、10番森岡瑞稀さん、11番大森陽貴さん、12番堀居美里さん、13番大西桜愛さん、14番西島良哉さん、15番堀部千穂さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

9番川島伝華さん。川島さん。

〔9番（川島伝華さん）登壇〕

○9番（川島伝華さん） 「自転車専用レーンの設置を」

私は、自転車専用レーンを設けることを提案します。

ついこの前、私が自転車に乗っていたときに、向かい側から人が歩いてきたので、よけようとしたら、車道に出てしまい、車と接触しそうになり、冷やりとしました。このような経験をした方は多いと思います。また、自転車と歩行者が同じ道路だと衝突してしまう可能性もあります。滋賀県では、去年、自転車の事故が880件も起きたそうです。

そこで、自転車専用レーンを設けていただくと、自転車と歩行者が衝突する可能性が減少するだけでなく、自転車単体の事故も減り、みんなが安心して自転車に乗ったり歩いたりできると思います。具体的には、自転車と歩行者が同時に通ると危険な細い道や、通行する人が多い通学路、駅の周りの道などに設けてもらえれば、より効果が期待できると思います。自転車専用レーンを設けていただくことは可能でしょうか。伺います。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（下山隆彦さん） 最近では、健康や環境の面から、自転車を利用される方が多くなっています。しかし、川島さんのご指摘のとおり、自転車に関係する事故も増えており、彦根警察署管内においても、平成27年は101件発生しており、大きな問題になっています。

自転車事故の多くは、歩道から飛び出た自転車と自動車の接触や、歩道を歩く人と歩道を走る自転車の衝突などが主なものであります。

本来、自転車は車両であり、特別な場合を除いて車道を走らなければいけません、車道を走ることに危険を感じ、歩道を通行されている方も多いと思います。

こうした状況から、自転車の安全対策については、平成24年に国土交通省と警察庁により、自転車通行空間の整備や通行ルールの徹底を進めるための安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインが策定されており、彦根市でもこのルールに基づいて自転車が安全に通行できる空間の整備を進めています。

ご提案をいただいた自転車専用のレーンをつくることは、とてもいいことで望ましいと思います。しかし、実現するためには、新たに道幅を広げる必要があることや、自転車専用レーンのネットワーク化を図ることも必要になるため、すぐに対応することは困難であると考えています。

このため、彦根市では、彦根駅や南彦根駅周辺の特に自転車を利用される方が多い道路

で、幅の広い歩道の路面に青い線を引いたり、路面にマークを貼りつけることや標示板を立てるなど、歩く部分と自転車が通る部分を明示して区分する対応を順次行っているところでもあります。

今後も、自転車利用をネットワーク化する計画の策定や、歩行者や自転車、そして自動車が安心して通行できる道路整備を進めていくと同時に、交通ルールを守ることや交通マナーに気を配ることも大切なため、道路整備とあわせて交通安全教室などの啓発に努めていきたいと考えています。

○第2グループ議長（礒貝侑采さん） 川島さん。

〔9番（川島伝華さん）登壇〕

○9番（川島伝華さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（礒貝侑采さん） 10番森岡瑞稀さん。森岡さん。

〔10番（森岡瑞稀さん）登壇〕

○10番（森岡瑞稀さん） 「琵琶湖岸に子どもから大人まで楽しめる公園を」

私は、琵琶湖にたくさんの人が集まったり遊んだりできる公園をつくることを提案します。

私は、琵琶湖が大好きです。これまでに何度か琵琶湖の近くに遊びに行ったり、美しい景色を眺めたりしに行きました。天気がよい日の琵琶湖は、太陽で光っていて、きれいでした。そこで遊ぶのはとても気持ちがよくて、ここに遊具があったらと思いました。滋賀県の中でも車で1時間ほどかけて行った草津の琵琶湖岸の公園には、大きな遊具や少し変わった遊具などがありました。子どもがたくさん遊んでいて、大人の人のはのんびりと過ごしていました。彦根にもこのような公園があったら、私も家族や友達と行ってみたいと思います。遊具だけでなく、のんびり過ごせるスペースがあれば、小さな子どもから大人の人まで楽しめると思います。

琵琶湖の近くに公園をつくるという理由がもう一つあります。それは、公園があると琵琶湖の周りが美しくなるということです。公園を美しくするために、みんなが頑張っただけ掃除をすると思うからです。

このように、私は、彦根にもたくさん湖岸に公園をつくることを提案します。

○第2グループ議長（礒貝侑采さん） 都市建設部長。

○都市建設部長（下山隆彦さん） 現在、琵琶湖の周りには、湖の水位が上下することによる自然環境の悪化を防止すること、湖周辺の新しい風景をつくり出すこと、および、安全な遊び場やスポーツが楽しめる場所をつくり出すことを目的として、幾つもの市にまたがる「琵琶湖湖岸緑地」という滋賀県によってつくられた公園があり、森岡さんが行かれたのはそのうちのひとつだと思います。彦根市内においても、既に、松原地区、犬上川大藪地区、柳川宇曾川地区、柳川新海地区および曾根沼の五つの地区の湖岸緑地公園があり、子どもが楽しく遊べる遊具、大勢で野球などのスポーツが楽しめるグラウンド、琵琶湖の

きれいな景色を眺め、のんびり過ごせる憩いの広場などが設けられており、子どもから大人まで楽しくご利用いただいております。

また、これら以外にも、彦根市が管理する公園がたくさんあります。例えば、金亀公園では、お城を眺めながら家族と楽しむことができ、荒神山公園では、豊かな緑に囲まれながら大きな遊具で遊ぶことができます。千鳥ヶ丘公園は、山の麓から頂上に向けてゆっくり散策することができる園路があり、山頂からまちなみの景色を楽しむことができます。また、庄堺公園は、船の大きな遊具や幼稚園児でも遊べる新しい遊具があり、とても美しく花を咲かせるバラ園やはなしょうぶ園もあります。

このように、彦根市内にはたくさんの公園があり、森岡さんの行かれた草津の琵琶湖岸の公園とは違った遊具などの施設もたくさんありますので、利用し、楽しんでいただければと思います。

最後に、森岡さんが琵琶湖岸に公園をつくる理由の一つに挙げられた「みんなが頑張っ  
て掃除をするためにも」という思いにつきましては、私たちも同じ思いでありますので、  
全ての公園で皆さんに取り組んでいただけるよう、今後も美しい公園整備を目指して取り  
組んでいきたいと思っております。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 森岡さん。

〔10番（森岡瑞稀さん）登壇〕

○10番（森岡瑞稀さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 11番大森陽貴さん。大森さん。

〔11番（大森陽貴さん）登壇、資料掲示〕

○11番（大森陽貴さん） 「防犯カメラを増やして安全な町に」

僕は、防犯カメラが彦根市に何台あるか、設置場所はどのように決められているかを質問します。

連れ去り事件のニュースなどで、よく防犯カメラの映像が使われていて、解決に役立っています。しかし、彦根には余り防犯カメラがないなと思いました。

こちらをごらんください。

僕の通学路には地下道があり、見通しも悪く、誰もいない状態になることもあります。以前に不審者が出たこともあります。僕の登校班は、人数が少なく、下校のときは途中から一人になることがあり、低学年の子らは怖いと言っていました。世間でも連れ去り事件などが実際にあるので、安全対策を強化してほしいです。

彦根市には、駅前に3台、ほかの地区に10台、そのほかの自治会で49台の防犯カメラがあると聞きましたが、一つの自治会にある防犯カメラとしても少ないし、まだ不十分だと思います。そこで、通学路や危険場所に防犯カメラを設置し、増やせば、安全なまちになるのではないかと思います。彦根市では、設置場所はどのように決められているのでしょうか。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 企画振興部長。

○企画振興部長（萩野 昇さん） 現在、彦根市内には、コンビニエンスストアなどの店舗や商店街、多くの人を利用する公共施設などに数多くの防犯カメラが設置されておりますが、設置に当たっては届け出の義務がないことから全体の設置台数を把握することはできません。そのため、市が把握している範囲でのお答えになることをお許しいただきたいと思っております。

現在、彦根市が設置している防犯カメラの台数は139台で、市役所本庁舎や市立病院など主に市の施設に設置をしています。このうち、通行人を対象とする防犯カメラは20台あり、駅の自由通路などに17台と、彦根駅前の歩道に3台を設置して犯罪防止を図っており、彦根警察署と協議しながら防犯のため有効と考えられる場所に設置をしています。

そのほかにも、地域の団体が彦根市から設置費用の補助を受けて、彦根駅前に8台を設置されているほか、飲食店街の袋町地区に10台を設置され、同じく犯罪防止のために運用をされています。

また、商店街や自治会などが、滋賀県警察本部の支援制度を活用して、平成27年度までに34台を設置されていますが、今年度においても、さらに18台が設置される見通しです。

大森さんのご指摘のとおり、全国各地で子どもが事件に巻き込まれたといった報道がなされており、彦根市内でも通学中に声かけ事案が発生するなど、不審者が出没している状況です。防犯カメラは、地域の安全を守るため必要な機材であり、それぞれの設置者によって、人が集まる場所や、あるいは、犯罪を防ぐ目的で有効と考えられる場所に設置が進められております。

防犯カメラの設置については、今後も滋賀県警察本部や彦根警察署と連携しながら取り組んでいくとともに、今年度からは自治会が防犯カメラを設置されることに対しまして、市が補助制度を設けるなど、より一層市民の安全確保に努めてまいりたい、このように考えています。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 大森さん。

〔11番（大森陽貴さん）登壇〕

○11番（大森陽貴さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 12番堀居美里さん。堀居さん。

〔12番（堀居美里さん）登壇〕

○12番（堀居美里さん） 「彦根市民が自分で命を守るために」

私は、防災センターを彦根市につくることについて提案します。

初めに、今年4月、九州地方を熊本地震が襲いました。彦根市も今後30年の間に最大震度7の地震に襲われることが予想されています。現在、私たちは、地震のことについて学ぶ機会が少ないのが現状です。仮に今の状態で彦根市に地震が来たら、命を落とす人が

出てくるかもしれません。人々の防災意識を高め、少しでも被害を減らすためにも、防災センターをつくるべきだと思います。

また、ほかにも地震以外の災害が彦根市で起きる可能性があります。災害が起きたら、どのような行動をとれば命を守れるのか、どのようにすれば被害をできるだけ減らせるのかについて、前もって知っておくことが大切になります。そのようなことを学べるように、防災センターをつくるべきだと思います。

なお、最近では、ホームページやガイドブックなどに命の守り方や被害を最小限にするための方法が載っています。でも、それは情報なので、ホームページやガイドブックを読んでいたとしても、災害が起きたときは生かすことができないかもしれません。

そこで、私は、防災センターをつくり、災害や命の守り方を体験できれば、もし災害があっても落ちついて命を守る行動がとれると思います。私は、彦根市民が災害に遭ったとしても命を守れるようにするために、防災センターをつくることを提案します。

○第2グループ議長（礒貝侑采さん） 川嶋副市長。

○副市長（川嶋恒紹さん） 堀居さんから、彦根市民が自分で命を守るために防災センターをつくることについてのご提案をいただきました。私の方からお答えをさせていただきます。

堀居さんがおっしゃるとおり、市民が災害から自分で命を守り、被害を少なくするためには、災害に備える準備と、災害が発生したときにとるべき行動をしっかりと学んでいただき、理解していただくことが大切だと思います。

ご提案いただきました防災センターは、災害に関する展示や体験を通じた学習ができるコーナーを含む施設として、大切な役割を持った施設であると思いますが、防災センターを設置するまでには、用地の選定や建設費の確保、整備する学習機能の検討、整備後の運営主体をどうするかなど解決しなければならない課題がたくさんございます。こうしたことから、彦根市としてただちにこうした施設を設置することは難しい状況であることをご理解いただきたいと思います。

現在、彦根市では、毎年、市民の皆さんに参加していただきます防災訓練を開催し、避難訓練を初めとして、消火・救出・救護などの体験訓練を実施しています。また、地震の揺れを実感できる地震体験車や大雨が体験できる降雨発生装置、火が発生したときの煙の恐ろしさを知っていただく煙体験機などを一堂に集め、知識だけでなく、実際に「見て」、「聴いて」、「触れて」、「感じる」ことで、災害の恐ろしさを体験いただき、市民の防災意識を高めていただく取り組みをあわせて実施しています。ことしは、去る9月11日に、荒神山公園におきまして、滋賀県と合同でこの訓練を実施し、多くの市民の方々に参加していただきました。

また、このような防災訓練以外にも、災害や防災について詳しい方を先生として皆さんのところに派遣し、災害などについて学んでいただく講習会や、市役所や消防署などの会議室やグラウンドを活用して、地域の皆さんに災害が発生したときの対応について学んで

いただく研修会や防災展を開催するなどして、災害に対する理解を深めていただく取り組みも行っています。

堀居さんの「学ぶ機会が少ない、体験できる施設を」とのご指摘やご提案を受けて、今後は、市民の皆さんが災害や防災について学んだり体験していただける機会を今まで以上に増やしていただければと考えています。

堀居さんも、彦根市が実施する防災訓練や防災展、さらに、地域の自治会や自主防災会、また、学校などで防災訓練が実施される場合には、積極的にご参加いただき、より一層、災害や防災について理解を深めていただければと思います。貴重なご提案、ありがとうございました。

○第2グループ議長（礒貝侑采さん） 堀居さん。

〔12番（堀居美里さん）登壇〕

○12番（堀居美里さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（礒貝侑采さん） 13番大西桜愛さん。大西さん。

〔13番（大西桜愛さん）登壇〕

○13番（大西桜愛さん） 「荒神山古墳を広めるために」

6年生になり、総合的な学習の時間に地域学習を行っています。地域の中にある昔から大切に守られているものについて、地域のゲストティーチャーさんからお話を聞く中で、荒神山にいまだに発掘されていない大きな古墳があることを知りました。平成16年から20年の間に4回、形や大きさの調査はされているようですが、誰のお墓か、どんなものが埋葬されているのかについて、その後、調査の結果が余り入ってこないで、とても気になりました。内部の調査は行われていますか。今後の予定を教えてください。

この古墳は、滋賀県で2番目に大きいのですが、パンフレットでは荒神山を大きく取り上げたものしか載っていません。古墳も彦根のパンフレットにできるだけ載せてアピールしてはどうでしょうか。

さらに、荒神山自然の家ではウォークラリーを行っています。古墳は近くにあるので、コースに入れてもらえると、私のように近くに住んでいても知らない人に知ってもらえたり、6年生の歴史学習に役立てたりできると思いました。せっかく貴重な古墳が近くにあるのですから、広めていけたらいいなと思い、提案します。

○第2グループ議長（礒貝侑采さん） 文化財部長。

○文化財部長（馬場孝雄さん） 荒神山の古墳は、今から約1600年前の4世紀末ごろ、古墳時代の前期に荒神山の尾根の上に築かれた前方後円墳で、全長が124メートルと大変大きく、県内でも2番目の規模です。この荒神山古墳は、全体的に保存状態がよく、湖東地域の古墳時代を考える上で大変重要な遺跡であるため、平成23年2月7日に国の史跡に指定されました。

彦根市教育委員会では、これまで4回にわたり古墳の範囲を確認するための発掘調査を

行いました結果、さまざまな形をした埴輪などが見つかり、その規模や築かれた時代がわかりました。誰の古墳かについては、琵琶湖の水上で物資の運搬をしていた権力者のものであることはわかりましたが、内部の調査は行っていませんので、どんなものが埋葬されているかまでは今のところわかっていません。将来的に科学技術が発達して、遺跡を壊すことがない、より精度の高い調査方法ができてから本格的な調査を行っていきたいと思っています。

大西さんのように、地域に住まれる皆さんが荒神山古墳に興味を持ってもらって、地域の文化財として大切に思っただけは、その保存や活用を考える上で大変重要なことだと思っています。このため、市では、多くの皆さんに古墳を知ってもらうために、これまでの発掘調査の内容について、調査の報告書を初め、解説シートなどのパンフレットを配ったり、ホームページで古墳の紹介をしています。

また、大西さんからご提案がありました。荒神山自然の家では六つのウォークラリーコースを設けて、それぞれ荒神山古墳を通るようにしています。これからは、先ほどの解説シートを大人から子どもまでわかりやすい内容にして、古墳を知らない方にも興味を持ってもらえるように工夫して、そのシートを見ながらウォークラリーコースを楽しく歩んでもらえるようにしたいと考えています。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 大西さん。

〔13番（大西桜愛さん）登壇〕

○13番（大西桜愛さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 14番西島良哉さん。西島さん。

〔14番（西島良哉さん）登壇〕

○14番（西島良哉さん） 「琵琶湖の固有種の魚を守ることについて」

琵琶湖の固有種の魚を守ることについて質問します。

僕は、父と一緒に滋賀県のいろいろなところに外来魚釣りに出かけています。父と釣りをしていて、外来魚が予想以上に多く釣れることにびっくりしました。

5年生の琵琶湖学習のときに、琵琶湖にしかすんでいない固有種がいること、その固有種が外来魚によって少なくなっていること、それによって琵琶湖全体の生態系が崩れていくことを学びました。僕たちが外来魚を釣り上げているとき、少しでも琵琶湖固有の魚を守れると思って、うれしくなります。僕は、琵琶湖の環境を守りたいと思っています。

また、とった外来魚は、捨てるだけではもったいないと思います。フライなどの給食にして食べたり、外来魚を粉にして魚粉の肥料をつくり、有機野菜を育てたりする方法も聞きました。彦根市では、具体的にとった外来魚を有効に利用するためにどのような取り組みをしていますか。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（小林重秀さん） 琵琶湖は、世界でも有数の古代湖で、独自の進化を

逃げたビワコオオナマズやホンモロコなど、固有種が数多く生息しています。しかし、近年は、オオクチバスやブルーギルを初めとする外来魚がたくさん生息し、固有種の魚などに深刻な影響を与えています。

琵琶湖の外来魚の問題は、滋賀県全体にかかわることから、県が対策事業を行っているところです。現在の取り組みとしては、漁師さんの団体である漁業協同組合に依頼して、外来魚を捕まえる駆除をされています。駆除した外来魚は、加工工場で粉にされ、豚などが食べる餌として利用されています。また、釣った外来魚を琵琶湖に戻さない琵琶湖ルールを条例としてつくり、外来魚回収ボックスや回収いけすを各地に設置して外来魚の回収をされており、その一部は肥料として活用されています。また、これらの取り組みとは別に、琵琶湖博物館のレストランなど県内の幾つかのお店では、外来魚を使った天ぷらやハンバーガーなど、食べることへの利用も行われています。

彦根市では、捕まえた外来魚の利用を直接しておりませんが、彦根港や神上沼などに外来魚回収ボックスを1カ所、柳川漁港に回収いけすを1カ所設置することで、県の対策事業に協力しています。また、環境学習として、出前講座を学校や放課後児童クラブなどで行い、環境を守ることの一つとして、もともとあった自然環境を守り伝える取り組みをしているところです。みんなで「琵琶湖の環境を守りたい」という思いを共有して、一緒に活動していきましょう。よろしく申し上げます。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 西島さん。

〔14番（西島良哉さん）登壇〕

○14番（西島良哉さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 15番堀部千穂さん。堀部さん。

〔15番（堀部千穂さん）登壇〕

○15番（堀部千穂さん） 「市立図書館の建設と彦根市近隣の図書館利用を」

私は、5年前に姉が子ども議会で「新しい市立図書館を建ててください」と提案したのですが、余り進んでいないようなので疑問に思っています。図書館の建設予定について聞いてみると、今は計画中とのことでした。しかし、姉が提案してからもう5年もたっています。あと何年かかるのでしょうか。

今の図書館はとても古いので、新しい図書館を建てれば、子どもからお年寄りまでいろいろな年代の人が利用するようになると思います。ですから、私たちが中学校を卒業する3年後までには利用できるようにしてください。

また、私の家から今の図書館までは車で30分かかります。でも、能登川にある図書館までは10分ほどで行くことができます。だから、私は、彦根市近隣の図書館をいつでも利用できるようにしてほしいと思っています。実際、大津市は、京都市と図書館の相互利用をしています。いつでも大津市民は京都市の図書館の本を借りられるのです。彦根市も近隣の市や町の図書館を利用できるようにすれば、お互いに充実できると思います。

そのため、次のことのできるだけ早く実現してください。

一つ目、新しい市立図書館を私が中学校を卒業するまでに建ててください。

二つ目、彦根市近隣の市や町にある図書館でいつでも本が借りられるようにしてください。

以上のことが私の意見です。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 市長。

○市長（大久保 貴さん） 堀部さんからは、図書館の建設と近隣の図書館の利用についてお話しいただきました。お姉さんが5年前に質問してくれたんですね。それから進んでいないではないかというご意見もいただきました。

今、図書館を整備するための基本計画を策定中です。図書館協議会というものがありまして、その皆さんからいろいろなご意見を聞かせていただいて、基本計画の素案を今つくっている最中です。堀部さんが中学校を卒業するまでに建設をとというお話ですが、図書館を建設するためには、どこにつくるのか、どんなものをつくるのか、さまざまな課題を解決しなければならないわけでありまして、3年後までにできるかということになりますと、頑張ってみたいと思っています。

そして、同時に、近隣の市町の図書館を使うということについて、大変いいお考えだと思います。ぜひこれは検討していきたいと思っています。ただ、これもいろんな課題があると思います。それぞれの市町の図書館は、そのまちの人たちがつくられたものでありますので、このことについてはよく相談をして進めていかなければならないと思っていますので、これからその作業はしたいと思っています。

最後に、先ほどお話ししました彦根市図書館整備基本計画というもの、来月末ぐらいにはその素案をインターネットで公開いたします。パブリック・コメントということで、皆さんからその案についてご意見を伺っていくという作業をいたします。その作業を経て基本計画の成案を得ていくということになりますので、できたら、皆さんもホームページも見てください、その基本計画がどういうものなのか、皆さんで読んでいただいて、話し合っ、ぜひご意見を市の方に出していただいたら、参考にさせていただけるのでありがたいと思います。よろしく申し上げます。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） 堀部さん。

〔15番（堀部千穂さん）登壇〕

○15番（堀部千穂さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第2グループ議長（磯貝侑采さん） しばらくの間、休憩します。

午前10時48分休憩

午前10時57分再開

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 議長を交代しました。稲枝西小学校、堀部千穂

です。よろしく申し上げます。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第3グループの順番は、16番大林莉緒さん、17番松山時央さん、18番江畑有希菜さん、19番磯谷莉子さん、20番近藤颯太さん、21番馬場優月さん、22番坂井花乃さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

16番大林莉緒さん。大林さん。

〔16番（大林莉緒さん）登壇〕

○16番（大林莉緒さん） 「たちばな号の巡回時間、巡回日について」

私は、移動図書館たちばな号について提案したいことがあります。

現在、たちばな号は、平日の昼間や、年に数回の土曜日に巡回されています。でも、私の住んでいる地域では、平日の午後2時ごろにしか回ってこないのので、たちばな号では一度も本を借りたことがありません。

私は本が好きで、学校でも少しの時間があれば、いつも本を読んでいます。学校の図書室でも本を借りますが、もっと難しい本や興味のある本を読みたいと思っています。だから、お母さんやお父さんに車で彦根市立図書館に連れていってもらって、8冊から10冊ぐらい、多いときは15冊以上借りることもあります。

私は、図書館が家から遠いですが、お母さんやお父さんに連れていってもらわなくても、一人で本を借りに行きたいと思っています。そこで、休みの日や平日の夕方にもたちばな号が巡回することを提案します。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 教育部長。

○教育部長（山口義信さん） たちばな号の巡回時間と巡回日について、休みの日や平日の夕方に巡回することを提案いただきました。

現在、移動図書館たちばな号は、約3,000冊の本を積んで、毎月、地域の公民館や公共施設など市内52カ所のステーションを、1日3カ所から4カ所ずつ16日間で巡回しています。

巡回の日時は、土曜日に巡回するときもありますが、ほとんどは平日の昼間となっています。提案いただいた休みの日や平日の夕方の巡回につきましては、たちばな号の運行に係る経費の面や、一月に52カ所あるステーションを巡回しなければならないこと、ステーションの組み合わせなどを考えると、すぐに実施することは難しいと考えていますが、今後、巡回の時間帯を含めた日程やコースを工夫するなど、見直しについて検討していきたいと考えています。

また、団体貸し出しといいまして、学校や団体に一度に50冊まで本を貸し出しています。読みたい本や授業で使う本があれば、学校への貸し出しとして1カ月間借りることができますので、先生にご相談してください。

今後も、図書館を利用される皆さんの要望に応えられるように、児童書を含め、図書の充実を図っていきたいと考えています。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 大林さん。

〔16番（大林莉緒さん）登壇〕

○16番（大林莉緒さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 17番松山時央さん。松山さん。

〔17番（松山時央さん）登壇〕

○17番（松山時央さん） 「稲枝に学生が利用しやすい図書館を」

僕は、稲枝に図書館をつくることを提案します。

僕は、本を読むのが好きです。でも、彦根市立図書館は、稲枝に住んでいる僕にとっては遠いのです。僕のほかにこのことを不便と思っている人もいます。

そこで、僕は、稲枝にも図書館をつくってほしいと考えました。近くに図書館があると、僕たち利用者にとっては利用しやすいのです。それに、利用しやすいので、利用者も増え、読書をする習慣が付きやすいのでうれしいです。

さらに、彦根市立図書館はことしで100周年なので、それを記念してつくるのもいいと思います。現状では市立図書館は学生の利用数が少ないので、学生が利用しやすい図書館を稲枝につくってほしいと思います。彦根市としてはどのような計画をお持ちなのでしょう。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 教育部長。

○教育部長（山口義信さん） 稲枝に学生が利用しやすい図書館をつくることを提案いただきました。

現在、彦根市には、北部地域に1館しか図書館がありません。特に彦根市の南部地域に住んでいる方にとっては、図書館までは距離があり、不便であると考えています。

こうしたことから、図書館サービスが行き届いていない地域には、移動図書館たちばな号による図書の巡回を行い、少しでも市内全域においてサービスが等しく提供できるように努めているところです。そして、どの地域に住んでいる人でも、できるだけ同じ条件で図書の利用をしていただけるよう、また、彦根市における図書館サービスの充実を図るため、市の中央部や南部地域において、新しい図書館の整備について、現在、検討を進めているところです。

この計画の詳しい内容につきましては、来年の3月末には彦根市図書館整備基本計画として取りまとめ、市民の皆様にご公表していきたいと考えています。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 松山さん。

〔17番（松山時央さん）登壇〕

○17番（松山時央さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 18番江畑有希菜さん。江畑さん。

〔18番（江畑有希菜さん）登壇、資料揭示〕

○18番（江畑有希菜さん） 「キッズ広報をつくってみては」

私は、「キッズ広報－ひこね－」を発行することを提案します。

私は、先日、興味があつて「広報ひこね」を読んできましたが、内容も難しく、知りたい情報も載っていませんでした。だから、私のような子どもでも気軽に彦根市のさまざまな情報を手に入れることができる「キッズ広報－ひこね－」があつたらいいと思います。

私が考える「キッズ広報－ひこね－」の内容は、イベントの案内、スポーツ少年団などの募集案内、各小・中学校の活動紹介、各小学校のスポーツ少年団や各中学校の部活などの活動報告などです。イベントの案内を載せれば、イベントの情報を自分の目で詳しく知ることができます。また、学校ではいろいろなチラシをたくさんもらいますが、1回1回印刷したり配布したりする手間が省けるので、紙代や印刷代の節約にもなるのです。

また、実際にほかの小・中学校の活動の様子を見に行くことはできませんが、この「キッズ広報－ひこね－」に各小・中学校の活動紹介を載せれば、その小・中学校に行かなくても活動の様子を知ることができるのです。最後にスポーツ少年団などの活動報告を載せれば、「あつ、こんなにすごい人がいるんだ。私も頑張ろう。」という気持ちになり、意欲が湧いてくるのです。

こちらの新聞をごらんください。

例えば、ことしの夏のオリンピックで、この彦根市で育った桐生選手の400メートルリレーの決勝を祈る思いで応援しませんでしたか。銀メダルをとられたとき、彦根市民である私たちはうれしくなりませんでしたが。より一層彦根を好きになりませんでしたか。彦根につながる人が活躍されていることでうれしくなり、そして、勇気が与えられるのです。

この「キッズ広報－ひこね－」は、何より自分たちが住んでいる彦根市のことを自分の目で詳しく知ることができます。また、この記事に載った人も、自分に自信が持てるようになります。私が考えた「キッズ広報－ひこね－」は、彦根市の情報を知り、彦根のことを好きになることで、私たちの住むまち「彦根」のことを誇りに思えるというのも利点です。このような理由や利点、効果などを踏まえた上で、子ども版広報「キッズ広報－ひこね－」を発行されてはいかがでしょうか。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 教育長。

○教育長（善住喜太郎さん） 江畑さんが言われるように、子ども向けに彦根市のさまざまな情報を伝えることは、彦根市の子どもたちの活動をさらに広げ、子どもたちが彦根を好きになってくれて、さらに彦根のためのいろいろな考え方などを深めていくために大切なことだと考えます。

現在、子ども向けの各イベントなどの参加者募集については、やはりチラシなどで紹介していることが多いです。また、彦根市における子ども向けのイベント情報としては、毎月、学校を通じて皆さんに配布されている彦根市子どもセンター情報「ぼけっと」から得ることもできますので、ぜひ参考にしてほしいと思っています。

さらに、江畑さんが提案されたように、市内のほかの学校がどんな活動をしているのか、その情報を知ること、自分たちに生かそうとすることもよいことだと考えます。各小学校における活動については、現在、彦根市の教育委員会のホームページの中に各学校の紹介がされていますので、ここも見てほしいと思っています。

提案いただいた「キッズ広報－ひこね－」についてですけれども、現在発行されている「広報ひこね」に加え、さらに新たに子ども向けの広報紙を発行することは、多くの時間と費用がかかることから、やはり難しいと考えるところであります。しかし、子ども向けの情報を伝える方法は、広報紙を配ることだけではないと思います。江畑さんの意見も参考にして、これから彦根市教育委員会のホームページを、市の子ども向けイベントや各学校の活動の様子などが子どもの皆さんにもっとわかる内容に工夫していきたいと考えていますので、期待してしてほしいと思っています。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 江畑さん。

〔18番（江畑有希菜さん）登壇〕

○18番（江畑有希菜さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 19番礒谷莉子さん。礒谷さん。

〔19番（礒谷莉子さん）登壇〕

○19番（礒谷莉子さん） 「たくさん外国人観光客が楽しめる彦根市に」

私は、彦根に来た外国人観光客に対する取り組みについて質問します。

私たちの学校の近くには、ミシガン州立大学連合日本センターがあり、日本語や日本文化を学びに多くの学生の方が海外から来ています。私たちの学校にも時々来て、英語を教えてくださいますが、日本語が十分ではないので、日本で生活するのは不便ではないかなと思います。

日本語が不十分だと、観光客の方も観光での視野が狭くなると思います。彦根城などの観光地でも外国人の観光客を目にすることが多くなりました。2020年に開催されるオリンピックに向けて、年々、日本に来る外国人の方が増えている中で、宿の数が足りなくなっているというニュースも目にしました。外国語による案内表示や、いろいろな言語でのガイドブックの作成、外国人向けの宿泊施設の増加など、彦根市では外国人観光客に向けてどのような取り組みを行っているのか教えてください。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 山根副市長。

○副市長（山根裕子さん） 彦根に来られた外国人観光客に対する取り組みについてお答えいたします。

礒谷さんがおっしゃるとおり、ここ数年、観光目的で海外から日本に来られる方々が大幅に増えており、彦根市でも彦根城周辺を散策されている外国人の方々を数多くお見受けしております。

こうしたことから、彦根市では、外国人観光客をお迎えする取り組みとして、まず、観

光案内看板の外国語表記や外国語版パンフレットの作成をしております。また、外国人観光客の方々が彦根に来られたとき、必要な情報が入手できるよう、「ナビ彦」という外国語に対応したスマートフォン用の観光ガイドアプリの運用もしております。

さらに、彦根城や駅前、夢京橋キャッスルロード周辺など、合わせて9カ所に、スマートフォンやパソコンから無料でインターネットに接続できる公衆無線LAN(Wi-Fi)を設置しています。

このほか、お越しいただいた外国人観光客の方々と直接接する機会の多い駅前の観光案内所には、英会話ができる職員を配置しておりますし、一緒に歩いてご案内するボランティアガイドさんの中には英語が達者な方もおられます。昨年度は、16カ国、228人の外国人観光客の皆さんを、このようなボランティアガイドさんがご案内されております。

このように、彦根市ではさまざまな取り組みを行っていますが、より一層、海外の方々に、彦根市の歴史、史跡、文化財や博物館などについて英語、中国語、韓国語で紹介し、説明できるよう取り組み、また、海外でのPR活動にも取り組んでいきたいと考えております。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 磯谷さん。

〔19番（磯谷莉子さん）登壇〕

○19番（磯谷莉子さん） 再質問します。

現在、彦根城を世界遺産にということで、さまざまなことが行われていると思います。彦根城を説明する冊子にもっとさまざまな言語を取り入れると、たくさんの国の人に彦根城の歴史などを知ってもらうことができると思うのですが、どうお考えでしょうか。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 山根副市長。

○副市長（山根裕子さん） 磯谷さんがおっしゃるとおりだと思います。私たちのまちには、世界から見ても本当に興味深い歴史があり、文化遺産があり、そして美しい自然がそれと融合しているという特徴があります。それをもとにして世界遺産登録のコンセプトもストーリーもつくっていきたくて思っておりますし、そのように、いろいろな研究を進めて、できてきましたので、これからはもっと日本の方々だけでなく外国の方々にも書物、パンフレット、そして世界遺産にも特化した英語のホームページも作成するよう、来年4月からの取り組みとして励んでおります。皆さんもぜひ、彦根市の歴史がどれだけ世界にとってもおもしろいのか、日本にとっても非常に興味深いのか、そして、それを反映している文化財、文化資産、そして自然がここにもあるということをいろんな人と話し、そして発信していただきたいと思っております。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 磯谷さん。

〔19番（磯谷莉子さん）登壇〕

○19番（磯谷莉子さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 20番近藤颯太さん。近藤さん。

[ 20 番 (近藤颯太さん) 登壇 ]

○ 20 番 (近藤颯太さん) 「彦根城を気持ちよく見学するには」

僕は、彦根城のお堀のところを歩行者専用にして、近くに駐車場をつくることを提案します。

彦根には、彦根城という観光客がよく訪れるお城があります。そして、春休みのお花見のころや土日になると、よくお城の周りで車が渋滞していたり、駐車場にとめられずに路上に駐車している車があり、歩く人にとってすごく危ないなと思っています。そこで、彦根城を見に来た観光客が気持ちよく歩けるように、この提案を考えました。

僕は、去年の夏に彦根城へ行きました。すると、熱中症で倒れている人がいて、そのとき、近くにいた人が、「救急車を呼んだけど、来ないな」とつぶやいているのを聞きました。そのときはとても車が混んでいたのでも、救急車も早く来られなかったのではないかと思います。観光に来た人に次も行きたいなと思ってもらうためには、交通の便利さがすごくかかわってくると思います。

そこで、彦根城の周りを歩行者専用にして、駐車場を広くして車やツアーなどのバスもとめられるようにすると、観光客は気持ちよく彦根城を歩いて見られるのではないかと思います。彦根城の安全面からしても大事なことだと思います。いかがでしょうか。

○ 第 3 グループ議長 (堀部千穂さん) 都市建設部長。

○ 都市建設部長 (下山隆彦さん) 彦根城には、春の桜のシーズンをはじめ、たくさんの観光客の皆さんにお越しいただいております。そして、近藤さんご指摘のとおり、お城の周りでは渋滞が発生し、駐車場もいっぱいになっています。このことは彦根市にとって大変重要な課題であり、テーマであると認識しています。

現在、お城の中の道路では、通行スピードを時速 30 キロメートル以下に規制しているほか、特に人の多い春の桜のシーズンに限っては、観光客などの歩行者を優先する道路として、自動車の通行ができないようにする対策を行っています。

近藤さんご提案のとおり、お城周辺の道路を歩行者専用の道路にすることは、安全で気持ちよく彦根城を見学していただくためにはとてもいいことであると思います。しかし、お城周辺の道路は、彦根市の南北および東西を結ぶ主要な道路になっているため、自動車の通行をとめることはできません。

このため、彦根市では、現在、新しく南北を結ぶ道路として、お城東側の護国神社前から中央町に抜ける都市計画道路立花船町線という道路の整備を進めています。この道路が完成すると、現在、お城の中やキャッスルホテル前の中堀沿いを通行している自動車はこの道路を通ることになるため、お城の中や中堀沿いの道路は歩行者優先の道路にできると考えています。

また、駐車場を広くすることや新しく駐車場をつくることについては、お城周辺ではスペースに限界があるため困難ではありますが、例えば他の市町でも実施されているような、少し離れたところに大きな駐車場をつくり、ここに自家用車を置いてもらって、シャトル

バスで彦根城に来てもらう方法なども有効ではないかと考えています。

これからも、もっともっというろいろ考え、近藤さんがご提案のとおり、彦根城を気持ちよく見学してもらえらることの実現に向けて取り組んでいきたいと思っております。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 近藤さん。

〔20番（近藤颯太さん）登壇〕

○20番（近藤颯太さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 21番馬場優月さん。馬場さん。

〔21番（馬場優月さん）登壇〕

○21番（馬場優月さん） 「朝市をもっとたくさん」

私は、朝市をいろんなところにつくって、つくる人も買う人も気軽に参加できるようにしたらどうかということについて提案します。

私は、以前、家から少し離れたところの朝市に行ったことがあります。そこでは新鮮な野菜が並んでいました。以前、テレビで、朝とれたばかりの野菜は新鮮と聞いたことがあります。商品に貼ってあるシールに生産者の名前が書いてあって、安心だし、生産者の名前がついた野菜を探したりして楽しかったです。ですから、近くに朝市がたくさんあったらいいなと思い、提案しました。

朝市は、大きなものではなく、小さなものを多くつくって、誰でも気軽に売ったり買ったりできたら、より多くの方がより多くの食べ物を手に入れることができると思います。そして、地産地消で地元の野菜のおいしさを知ることができると思います。

このように、安全でおいしい野菜を食べられるので、朝市をたくさんつくることを提案します。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 産業部長。

○産業部長（黒澤茂樹さん） 馬場さんのおっしゃるように、安全で新鮮でおいしい野菜を食べてもらうために、多くの方々が朝市に参加できる仕組みをつくることは大変重要なことだと思います。

彦根市では、これまでから多くの生産者に、新鮮な野菜などを提供する朝市の開催を呼びかけています。この結果、平成7年には、関係者が集まって彦根朝市組合が設立され、彦根城の近くの広場や夢京橋キャッスルロードなどの市内各地で朝市が活発に開催されました。現在、この団体は既に解散をしていますが、この活動の一部が「ひこねで朝市実行委員会」という新たな団体に引き継がれて、毎月1回、彦根城に近い滋賀県護国神社の敷地内で「ひこねで朝市」として朝市が開催され、地元の方や観光客でにぎわっているところでございます。

また、そのほか、馬場さんの小学校区である高宮の地域においても、2010年から3年間ほど、近江鉄道の高宮駅前や東びわこ農協の彦根東支店の駐車場で朝市が開催されてきました。

このように、彦根市においても、各地で幾つかの朝市は開催されてきましたが、もっとたくさんの朝市が開催されるためには、新鮮な野菜などを提供する生産者が増えることが大切であると考えています。このことから、彦根市としましては、こうした生産者がどんどん増えていくように、引き続き、滋賀県や東びわこ農業協同組合などの関係機関と連携しながら、野菜の生産を振興していきたいと考えております。

以上です。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 馬場さん。

〔21番（馬場優月さん）登壇〕

○21番（馬場優月さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 22番坂井花乃さん。坂井さん。

〔22番（坂井花乃さん）登壇〕

○22番（坂井花乃さん） 「増えすぎた水草から琵琶湖を守ろう」

私は、琵琶湖に水草が増え過ぎることで環境が悪くなってきていることをもっとたくさんの人に知ってもらうことを提案します。

5年生のときに、学校の授業で琵琶湖の水草について調べました。そのとき、琵琶湖に外来種の水草が増え過ぎて環境が悪くなってきていることを知りました。外来種の水草が増えることで、琵琶湖にすむ魚が産卵・生活する場所が減っています。このままでは、魚が減って、琵琶湖の生物がいなくなってしまうかもしれません。また、水草が多過ぎると、水質が悪くなり、琵琶湖の水を今までのように飲めなくなるかもしれません。しかし、そのことを知っている人はまだ少ないと思います。また、水草を刈り取る活動が行われていることも余り知られていないと思います。

そこで、琵琶湖に外来種の水草が増えていることや、水草を刈り取る活動があることを伝える工夫をしたらいいと思います。例えば、公用バスの側面にプリントしたり、ポスターを人がよく通る場所に貼ったりしてはどうでしょうか。このように、たくさんの場所でアピールすることで、多くの人に、外来種の水草が増え、琵琶湖の環境が悪くなっていることを知ってもらえると思います。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（小林重秀さん） 現在、琵琶湖およびその周辺で異常に増えている水草には、ナガエツルノゲイトウとオオバナミズキンバイという2種類の外来水生植物があります。これらの植物は、ともに熱帯原産で生命力が極めて強く、ちぎれた一片の茎、あるいは葉からでも再生し、増えていきます。また、成長する速度が非常に速く、放置すると数カ月で川や水路が埋め尽くされて水が流れにくくなり、生態系や農業・漁業に深刻な影響を与えるおそれがあります。さらに、陸上でも生育してしまうため、岸へ揚げるだけでは枯れません。このような外来水生植物は、彦根市内でも、湖岸や河川、水路、神上沼や野田沼など、身近な場所で見られるようになってきました。

彦根市では、滋賀県や滋賀県立大学などの関係機関と連携し、大学生や市民ボランティアと協働で刈り取るなどの駆除活動を実施するとともに、県内の市や県などで構成する琵琶湖外来水生植物対策協議会に参加して、機械を使った駆除を実施するなど、対策を行っているところです。現在のところ、このような駆除を続けていくしか有効な対策はありません。

また、市内の学校や放課後児童クラブ、自治会、事業所などで環境学習出前講座を開催し、外来水生植物の特性や、琵琶湖の環境に対する影響、駆除活動を実施していることなど、楽しく学ぶことを通じてたくさんの市民に伝える取り組みをしています。先日は、中学校が実施するフィールドワークに駆除活動を取り入れて、生徒の皆さんに実際に駆除の体験をしていただいたところです。

しかし、坂井さんのご質問のとおり、こういった問題が身近にあるにもかかわらず、市民の皆さんにはまだまだ知られていません。一人でも多くの方に関心を持っていただくためにも、外来水生植物が増えていること、また、それらを駆除して環境を守る取り組みが行われていることを、たくさんの人が目にする場所で掲示して情報を提供するなど、いろいろな機会を捉えて積極的にアピールしていきたいと思います。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 坂井さん。

〔22番（坂井花乃さん）登壇〕

○22番（坂井花乃さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

○第3グループ議長（堀部千穂さん） 以上で全ての質問を終了します。

これで第9回彦根市子ども議会を閉会します。

皆さん、お疲れさまでした。

午前11時32分閉会

会議録署名議員

第1グループ議長	坂井花乃
第2グループ議長	磯貝侑采
第3グループ議長	堀部千穂
議員	上野波留
議員	坂田あすか
議員	吉原ほのか
議員	古川和愛